



市民の安全・安心のために

私たちの生活に密着する消防救急業務
 平成28年度から始まる広域化についてお知らせします

問い合わせ
 防災課 広域消防整備室
 今村 ☎230057

広域化におけるメリットの一例（静岡市の消防力）



静岡市消防ヘリコプター（カワセミ）
 救助活動をはじめ、中山間地などの遠隔地からの救急患者の搬送や医療機関への病院間搬送、また自然災害や大規模災害の発生時には、孤立集落への救援物資や医療品などの搬送を行います。
 林野火災など広範囲におよぶ火災が発生したときには、最大容量1,420リットルの消火タンクを活用した空中消火活動を行い、上空から赤外線カメラを活用した情報収集活動が可能。定員15人。

陽圧型特殊災害対応自動車

N（核）・B（生物剤）・C（化学剤）による災害に対処する特殊災害対応自動車です。
 防護・検知・除染資機材を備え、テロ災害や毒ガス災害に対処できます。車内は外気が流入しない陽圧になっており、万が一汚染区域に入る場合においても、危険を排除する構造となっています。



ウォーターカッターを使用した救助活動
 大規模工場火災などといった濃煙排除や有毒ガスを拡散させる災害現場などに活躍する特別高度工作車に積載されています。
 ウォーターカッターを用いて、研磨剤を配合した高圧水により、鋼材やコンクリート、木材などを切断することができます。可燃性ガスが充填しているような環境下での作業が実施可能で、火花の発生や引火を避ける必要がある状況下でも活躍します。

大型除染システム登載車

大規模なNBC災害時に汚染の可能性のある被災者を除染するシステムを登載した車両で、緊急消防援助隊の体制強化を目的に配備されました。
 「汚染被服の脱衣」から「流水などによる除染」、「除染後の応急的な着衣」までを連続して1時間当たり200人以上行うことが可能です。温水機能、乾燥機能を備え、自力で歩行できない被災者にも対応できます。



県担当者コメント —消防体制の充実に向けて—



静岡県消防保安課 主幹兼副班長 武田 幸人さん
 県では平成20年3月に県内を東部、中部、西部の3圏域とした消防救急広域化推進計画を策定しました。
 これを基に、圏域ごとに対象市町による広域化の協議を実施した結果、最終的に県内を8地域として消防救急広域化を推進することで市町の合意が得られたことから、22年6月に推進計画を変更しました。
 牧之原市においては、「静岡地域」という枠組みの中で静岡市に消防業務を委託することにより、政令市の持つ消防力を活かすとともに25年度からの牧之原市相良消防署の運用に向けての準備を行い、消防救急広域化を図ることとなっております。
 県としても、牧之原市の消防体制の充実強化のため、静岡地域の消防救急広域化の実現に向け、支援していきます。

消防本部や通信業務の集中化に向けて、協議が進められている消防救急業務の広域化。これまでの協議により、県が示した県内8つの地域の中で、本市は静岡市が取りまとめる「静岡地域」に平成28年度から業務を委託し、広域化を図ることに決定しました。

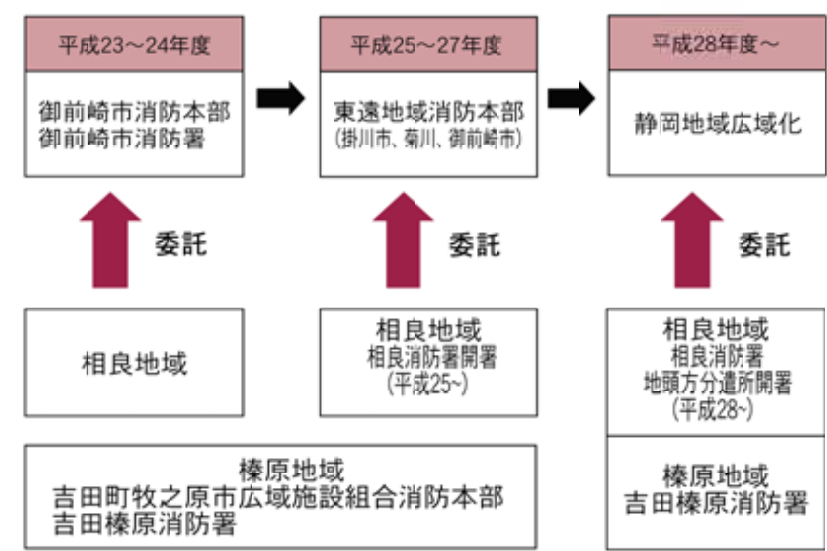
静岡市への委託
 静岡市に委託する主な理由としては次のとおりです。
 ①本部機能の一元化
 指令部門を統合し、管轄区域を越えた出動計画の作成や統一的な指揮下での効果的な部隊運用が可能。
 ②業務の高度化、専門化
 広域化に伴う専門要員の配

置や養成が可能となり、質の高いサービスが提供可能。
 ③政令市の消防力の有効活用
 特別高度救助隊や消防航空隊など高度な部隊や車両などの有効活用による消防力の充実強化。
 委託開始の時期については、構成市町での協議、検討をする準備期間や従来のアナログ無線の使用期限に伴うデジタル無線化の整備を考慮して、決定しました。

牧之原市の消防救急
 市は、これまで相良地域の消防救急業務を御前崎市との広域施設組合で運営していましたが、両市とも異なる枠組

みに属することにより、消防救急業務のみを組合から離脱させることになりました。
 広域施設組合消防本部が御前崎市に配置されていたため、離脱に伴って組合職員や施設、車両などはいったん御前崎市に帰属させます。
 相良地域については、消防救急業務の低下を招かないよう23年度から24年度までの2年間、消防救急業務を御前崎市に委託しています。この間に、相良地域に「(仮称)牧之原市相良消防署」を建設し25年度から相良地域の消防救急業務の運用を図ります。
 榛原地域は従来どおり吉田町牧之原市広域施設組合消防本部により、27年度まで対応する予定です。

牧之原市消防救急業務広域化の流れ



* 東遠地域消防本部への委託は関係市と現在調整中